

## 旭山動物園

私は今年、高校1年の担任をしています。来秋に北海道の富良野に修学旅行に行くための下見に、担任団の教員2人が行って帰ってきました。ちょうど年に一度の保護者集会があり、その中で下見報告として上映されたビデオには、北海道の大自然ではなく、動物園の中の動物たちが次々に登場してくるばかりでした。

「それまで日本一だった上野動物園の年間入園者数を半年で超えたという旭山動物園に立ち寄ってみたら、とてもよく工夫されていて、ライオンを真下から見られたり、死んでしまった動物の所には『喪中』と書かれてあったり、ペンギンが泳ぐ水槽を360度のパノラマで見られたり、これは人気が出るはずだなあと思って撮影している」と、電池がなくなっちゃいますと、担当者苦笑しながら保護者に説明していました。

その直後には、たまたまNHKの『プロジェクトX』という番組で、廃園寸前の北海道のはずれの動物園が日本一の入園者数になる

までのエピソードが紹介されていました。動物を閉じ込めるのではなく、普段通りに生活させて、飼育係だけが知っている動物の本当のかわいいところをみんなに見てもらおうとする配慮の積み重ねのようでした。

「ペンギンは陸の上はゆっくり歩くけど、水の中に入ればものすごい迫力で素早く華麗に泳ぐ。まさに水の中を飛ぶ鳥なのです。この姿をみんなに見てほしい」と思っただけで中身の構想ができました」というような、それまでになかった新しいタイプの動物園ができるまでの話が紹介されていました。

## 音楽とゲーム

私の勤める大阪府立牧野高校は、今年創立30周年を迎え、先日その記念行事が行われました。多くの高校では、こういうとき

には会館を借りてフォーマルな式典を小一時間ほど行ったのち、劇団や交響楽団などによる芸術鑑賞的な行事を行って終了となります

が、今回は「ようこそ先輩」というコンセプトで、それまでになかったような新しい行事を創っていいことになりました。

講演を行ってもらったのは、本校の2期生の松浦雅也さんでした。実は私自身が本校の2期生で、そのときのクラスメートに講演を依頼したのです。

松浦さんは、20代後半のころは「PSY・S (サイズ)」というバンドを結成し、作曲編曲したアルバムをSONYから15枚以上出し、テレビドラマやアニメ、映画の主題歌なども手がけるなど、音楽家として大活躍しました。その後は、全世界で大ヒットした音楽ゲーム『パッパパッパ』(プレイステーション用)のプロデュー



勝村久司 文  
text: Hisashi Katsurama

PROFILE◎かつむらひさし  
1961年生まれ。京都教育大学天文学教室卒。大阪府立高校教員。90年に長女を医療事故で亡くし薬害や情報公開の市民運動に関わる。著書に『はくらの「星の王子さま」へ』(幻冬舎文庫)等。  
<http://homepage1.nifty.com/hkr>

— 連載 9 —

# 星の子どもの詩

# ファーストペンギンのススメ 新しい時代を創る子ども

スをきっかけに音楽や映像を楽しめるゲーム制作を中心に活動し、最近では、NHKみんなのうたの『ありがとサンキュー』の作詞作曲、ソニーの大型ロボット「AIBO (アイボ)」のサウンドプロデュースなどを手がけています。

そんな彼が、大きなスクリーンの映像を駆使し、生徒やロボットとの共演、音楽演奏なども交えて行った講演ライブのタイトルは「進め！ ペンギン」でした。

## 進め！ ペンギン

講演はまず、「現代はさまざまの意味で苦難の時代だと思っ。たとえば、君たち高校生は今、こういう状態なのかもしれない」と始まり、スクリーンには、南極のブリザードに耐えるペンギンの群れの写真が映し出されました。

松浦さんは、学生時代に作家の小松左京さんに保証人になってもらい、家が一軒買えるくらいの借金をして、当時日本には一台もなかったサンプリングシンセサイザーを購入したこと、自分だけの新しい音楽を創ろうと「打ち込み音楽」を始めたこと、また、音楽に

映像の楽しさを融合させて「音楽ゲーム」という新しいジャンルを創ったことなどを、音楽やゲームに関心を持つ高校生たちに実演や映像をもとに話し続けました。

実は彼は、2004年、アメリカで「ファーストペンギン賞」を受賞しました。ファーストペンギンというのは、群れの中から最初に海に飛び込むペンギンのことらしく、新しい分野を切り開いてきたことが高く評価されたのでしょ。

講演では最後に、彼の親しい友人である茂木健一郎さんの本の一文が紹介されました。

「ペンギンのアルゴリズム(※)：南極の氷の上には食べ物は無い。海に飛び込めば食べ物があるが、逆にシヤチナなどに食べられるかもしれない。だから、ほかのペンギンが飛び込んだあとに、安全を確認してから飛び込んだほうがよい。だけど、誰も飛び込まないままでは食べ物はない」

## 自分探しではなく

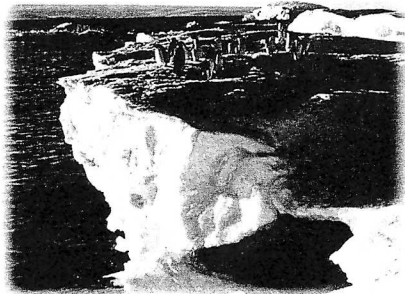
「自分探し」のように、すでにある道から選ばずとするのでは

なく、自分の道を創っていくこと、そのためには、一発の大ヒットを目指す気持ちよりも、毎日やるべきことをコンスタントに続ける力を持つことが大切、と彼は話しました。毎日のお昼ごはん、仕事仲間とともに近所のお弁当屋めぐり、おいしそうに安くてヘルシーなものを見つけて食べるうれしさが糧だ、と話しました。

松浦さんの友人の茂木さんと、先月号で紹介した自分独自の性教育のあり方を提唱している花井十伍さんの友人の養老孟司さんは、『スルメを見てイカがわかるか!』という本を出版されています。

彼らは、それまでの対立しがちな哲学や宗教を超えた新しい学問のあるべき姿を、人間の主観である「脳」を考えることから構築しようとしています。

そんな本を読んだり、ペンギンが主役のアニメ『ペンギン』を久々にわが家で子どもと一緒に見て楽しみながら、今はまだ海に飛び込む必要のない子ども達の希望通りに、クリスマスに音楽CDやゲームソフトを枕元に置くべきか否かという思考を楽しんでいます。



※アルゴリズム／問題を解くための計算手順のこと。処理手順にもいう。アラビアの数学者アル=フワリスミにちなむ。